

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念に基づく運営				
1. 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者・家族の立場、地域との連携を考慮して作成している。スタッフルームに掲示している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に唱和しており、理念に基づいたケアに心掛けている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	里心便りや、福祉フェスティバル等に展示物を飾る時、一緒に掲示し、理解して頂けるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の集落は、山村にて住宅が密集しておらず、日常会う機会は少ないが、時折、採れたての農作物を持ってきて頂いたりして、立ち寄ってもらっている。夏休みのラジオ体操は、ホーム敷地内の広場を利用して頂き、利用者も一緒に参加し顔見知りになっている。	○	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	清掃活動・敬老会・町の福祉フェスティバル・近隣施設の歌謡ショーに参加し、交流を深めている。分別ごみ出しや、道路の掃除など、利用者と一緒にやっている。	○	
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議を行い、話し合いを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価に対する意義を理解し、前回の評価を元に、改善に取り組んでいる。運営推進会議にて、報告している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、利用者の状況報告をし、意見を頂いたり、話し合いを行っている。記録をとり、ケアサービスに生かせるよう努めている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	黒木町福祉協議会等の行事に参加したり、町の施設を利用し、サービス向上に取り組んでいる。家族会や町の交流センター(温泉)等利用し、利用者へサービス提供している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族の申請により、地域権利擁護事業や成年後見制度を活用し、支援している。事務職員がその都度対応している。		
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待等は見逃さない様、利用者の入浴時、身体状態、表情等観察している。		
	4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に見学して頂き、心配事や不安等を尋ね安心して頂ける様説明を行っている。契約書・説明文書について説明し、書面を家族へ渡し入居中の要望等もいつでも受け付けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見・苦情の投函箱を設置している。家族からの話しの中でも、意見としてミーティング等で話し合っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に利用者の状況報告し、ホームの便りで定期的に報告している。また、状態に応じその都度連絡している。便りにて職員紹介している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会等で意見等聞いたり、アンケートを取り、ミーティング等で話し合い反映させている。家族を交えて話し合いを行っている。話し合いの内容は記録に残している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングの中で、職員との意見交換を行っている。職員の意見を優先し楽しい職場になるよう心掛けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	前もって休み希望を全職員に取り、翌月の勤務表の作成を行っている。職員の都合にて勤務交代等あるが、職員それぞれが責任を持って行うようお願いしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はしないようにしているが職員不足（公休希望等）時は、両ユニットでカバーしあっている。建物上日頃よりユニットの行き来が出来る為、全スタッフが利用者へ関わりが持てている。その為、それ程大きなダメージは与えているとは思われない。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	やる気のある方であれば、性別・年齢関係なく採用している。また、職員の能力が発揮できるように上司からの命令的な業務はさせていない。 ミーティング等で職員同志のコミュニケーションがとられ、提案され非不可ともあれ、実行してみようと職員の前向きな気持ちを配慮する。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	自治体の講演会等に必ず参加し理解を深めるよう努めている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	無資格の場合は、最低ヘルパー2級の資格を取って頂くようお願いしている。本人さんが前向きに考えて頂ければ、働きながらの資格取得出来る様応援している。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者同志に歌謡ショーや夏祭り等の案内をし合い交流を持っている。ネットワーク作りでは、八女地区のグループホーム協議会に入会し、事業計画を立て毎月の勉強会に参加している。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員に呼びかけ、食事会になるべく全員参加できる日程を決め、担当者が責任をもって職員に伝えて頂くようお願いしている。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者からの命令的な業務はお願いせずに職員一人一人のアイデアの提案を受け入れている。		
	Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	急な入居で無い限りは、事前にアポを取り、アセスメントを取らせて頂き、お話を伺っている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前のアセスメント時にはもちろん、入居の際にも御家族と向い合い、話し合い家族の不安を取り除くよう、対応を心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最も困っておられる事を伺い、急いだ方がよいか、少し時間をおいて安心して入居して頂くかを考慮する。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者・家族には入居前に見学に来て頂き、安心して頂けるよう落ち着いた雰囲気を見てもらっている。スタッフにも気持ちにゆとりをもって迎えられる様、事前に情報を伝え、対応に努めてもらっている。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔されていた事(仕事・遊び)等、教えて頂いたりしている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	受診等に付き添って頂いたり、リハビリに連れて行って頂いている。また、利用者の願い等を伝え面会をお願いしたりしている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	「里心だより」にて状況報告した上で、面会等来て頂きやすい様な促しをしている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域のお店・以前の職場等に行ったりして、知人に合わせられ会話出来る様支援している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別によるが、入居者同志認識され役割を決め作業されたり、支えられ生活されている。		利用者が1人で居られる時、声掛けられたり、又他の利用者へのさりげない介助をされる場面がある。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居により、契約が終了した後も、行事等の案内をし、参加して頂く事など付き合いを大切にしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添って、可能な限り意向に添う様支援している。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にアセスメントを取り、生活歴を把握した上で、サービス提供に努めている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎朝バイタルチェックを行い、健康状態、表情、態度など心身状態を把握し、穏やかに過ぎて頂く様努力している。		
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	年に1回、家族への要望等についてのアンケートを郵送にて答えて頂いている。また、面会時、家族等に近況報告を行い要望・意見を伺いながら計画作成している。ミーティングや申し送り時スタッフ間での意見・情報交換している。	○	定期的に面会に来られるところは、話し合いを面会時に時間をとって頂けているが、なかなか面会に来て頂けないところの話し合いが出来ていない。(アンケートには答えて頂けている。)
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	緊急性のあるものは、家族へ連絡し、家族をまじえてのカンファレンス。スタッフ間にて3か月ごとの見直しカンファレンス。見直しに家族の同席必要な際はお願いし交えてカンファレンス。スタッフ間で見直しし家族近況報告と合わせ、家族とのカンファレンス等を行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にその日の介護日誌を記入している。個別に支援経過記録を記入し見直しに役立てている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	個々に応じ対応、支援をしている。通院介助や買い物、理容室への外出支援。他施設への面会の送迎等行っている。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事に応じた民生委員・ボランティアの参加・協力をして頂けている。行方不明等の協力依頼を警察へしている。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、他のサービスは利用していない。	○	今後、入居者の意向や必要に応じ、他のサービスを利用し、支援して行きたい。
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居相談について、入居状況や情報交換等行っている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、かかりつけ医の確認をし、希望に応じて支援又は、月2回の協力医療機関での往診(緊急時24時間対応)と連携を取っている。結果はその都度報告。家族付き添い時も確認し状況把握している。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	定期的はホームドクターの往診時に相談し専門医の治療を受けられる様支援している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームドクターの看護師に相談しながら行っている。	○	常時、情報交換出来る様当事業所へ看護職員を確保していきたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が安心される様面会に行ったり、主治医から経過を尋ね早期退院出来る様努めている。医師・家族・スタッフがカンファレンスに参加した。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについては、入居時に家族へ確認する。又、本人からも意向を会話の中で確認出来る様、雰囲気作りやアセスメントを取る事で状況に応じて家族・医師・ホームとの話し合いを密に行い方針の共有を持っている。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族・医師・ホームとの話し合いを行い、重度化になった場合は、主治医と連絡を密にとり、最良に終末期が送れるように支援している。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在そのような事がないが、今後ある場合は、十分な話し合いでダメージを防ぐよう努める。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	普段の言葉遣いや対応も意識しあっている。代表からも注意がある。個人情報にも十分気をつけている。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	決定しやすいような促し方(2択3択)をしたり、物を見てもらったりと自分の考え・思いを発言して頂くよう支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の体調・状態・気分を見ながら、声掛け行い支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	自分で出来る方は化粧をしてもらっている。また、衣類更衣時や入浴前には、どれがいいか衣装を選んでもらったりと支援している。理美容については、アンケートをとり希望を取ったが、殆ど要望がなかった。本人の希望により理容室に		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ・準備・つぎ分け等して頂いて職員と一緒にやっている。また、時季を見て、ホーム前広場で食事をしたり、お弁当をもって近くの公園等にて食事をしたりと支援を行っている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好みの物を一緒に買出しに行ったり、好まれる物を食べて頂いたり、飲んで頂いたりと支援している。おやつ時や入浴後等の水分補給時は、何がいいか選択して頂き、提供している。		
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレ誘導・声掛けを行っている。また、トイレでの排泄を目標に立位訓練にも取り組んだり支援している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スタッフ不足や受診等が重なると希望通りに支援できない事もあるが、一人一人のその日の状態に合わせて入浴を支援している。時には、近くの温泉や町の交流センターの温泉を利用し、スタッフも一緒に入り楽しんで頂いている。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人一人の生活の流れを把握し、状態に応じて居室にて休息を促したり、夜間も安眠出来る様外気浴や活動をして頂き、安心される声掛けをし入眠を促している。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の好まれる事・歌・手芸・レク等楽しく過ごして頂けるよう努めている。また、洗濯物干し・たたみや掃除等生活面の力を発揮できるよう支援を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望等がある時のみ、一緒に買い物へ行き、お金を使用できるように支援している。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	玄関の鍵は、日中は施錠せずいつでも出入り自由となっている為、ホーム前にて外気浴・ホーム周辺の散歩等行っている。また、車にて買い物・ドライブへと出掛け、山や野花の景色も楽しんで頂けるよう支援している。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	時季の花見に出掛けたりと外出の機会を提供している。また、家族との外出・外泊は自由にして頂ける様に支援している。(連絡はきちんと行っている。)		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族からの電話や入居者の要望時には、電話の取り次ぎ介助行ったり、手紙をでしなくても自筆に自信がない方の代筆介助を行ったりと支援している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に制限なく、いつでも訪問して頂ける。時間によってはおやつや食事を利用者と一緒に食べて頂ける様促し、楽しい時間を過ぎて頂ける様支援している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護保険法・指定基準における禁止の対象となる具体的な行為を理解しており実践している。委員会を立ち上げ、毎月ミーティングでかいこ報告している。経過・再検討をカンフェレンス時に行っている。		
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は自由に出入り出来る様にしている。外出しようとする入居者には、行動を把握し一緒に散歩に出掛けたり、行き先の確認等、注意を払いケアしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の負担にならない様な見守りをし、常に行動を把握している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者が食事準備で包丁を使用される時は、側に居て見守り行っている。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々に応じて見守り、事故の無い様ケアに当たっている。事故報告書作成し、事故の原因・今後の注意点などを明確にし、再発防止に努めている。また、行方不明時のマニュアルやリスト作成し緊急時に備えている。	○	行方不明・火災時の事故防止に当たり訓練・講習等行っていきたい。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを作成し、急変時に対応出来る様にしている。ADEを設置している。また、ADEによる救急救命講習を行った。		
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災に対する避難訓練を消防署へ依頼。指導の元実施している。また、自主訓練行っている。	○	定期的に訓練を行って行きたい。ホーム長が地元の消防団に入っており、毎月の点検時に協力を依頼している。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	各個人の身体状態に合った暮らしの対応策を話し合っている。心身状況を家族に報告している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日、バイタルチェックを行っており、体調変化の早期発見に努め、状況に応じ主治医に連絡相談し対応している。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を個別にファイルに保管し薬の薬効や副作用、用法や用量等、理解している。受診時の報告・服薬の変更等、常時スタッフ間にて申し送り行っている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日排泄チェック行っており、便秘が続かない様、水分・食事・下剤等の調整を行い予防している。個別により、運動の働きかけを行い、歩行運動等行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを促し自力で出来ない方は、介助し清潔に努めている。義歯洗浄剤を週に1回使用している。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別により、量・栄養バランス・水分補給に努めている。定期的に血液検査を行っている。月に1度体重測定を行い、体重の増減を記録報告し状態に対応している。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し衛生管理に努めている。インフルエンザ予防接種は、入居者・職員行っており、家族の方の承諾を受けている。手洗い等入居者・スタッフとも心掛けている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理用具の衛生管理に努めている。調理後の掃除・調理用具の消毒等行っている。		
	2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	季節ごとに花が咲くように手入れをしベンチを置いてゆっくりとくつろげる様な雰囲気作りをしている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる壁の飾りや季節の花を飾ったりして、季節感を感じて頂き、居心地の良い暮らしが出来る様努力している。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同志のテーブル配置やソファの位置等工夫している。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々により使い馴れたベット・ダンス・ソファ等、家族と相談し準備し居心地が良い様心掛けている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の掃除の際や天候の良い日には、窓を全開にして換気行っている。温度調節は、その日その日の天候や気温等に注意している。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の行動範囲には、障害物となる物を置かないようにしている。また、トイレや浴室等に手摺りを設置している。その他、廊下や居間等歩行時の転倒の危険となる角には、コーナーカバー(安全クッション)を取り付けている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各利用者の居室入り口には、名前の表札をかかっている。トイレや浴室にも目印となるように表札をかかっている。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホーム玄関前には、季節の花が咲くように花田を植え変えている。ベンチやテーブルを設置し、天候が良い日には、外気浴をしながら、歌や体操・談話をされ楽しめる。また、昼食やおやつ等摂ったりしている。ホーム周辺にも草花や木々など自然の季節感を感じられ、散歩も楽しむことができる。		

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 》①ほぼ全ての利用者の 《 ○ 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 》①ほぼ全ての家族と 《 ○ 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 ○ 》①大いに増えている 《 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くない
100	○職員は、生き活きと働けている	《 》①ほぼ全ての職員が 《 ○ 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない